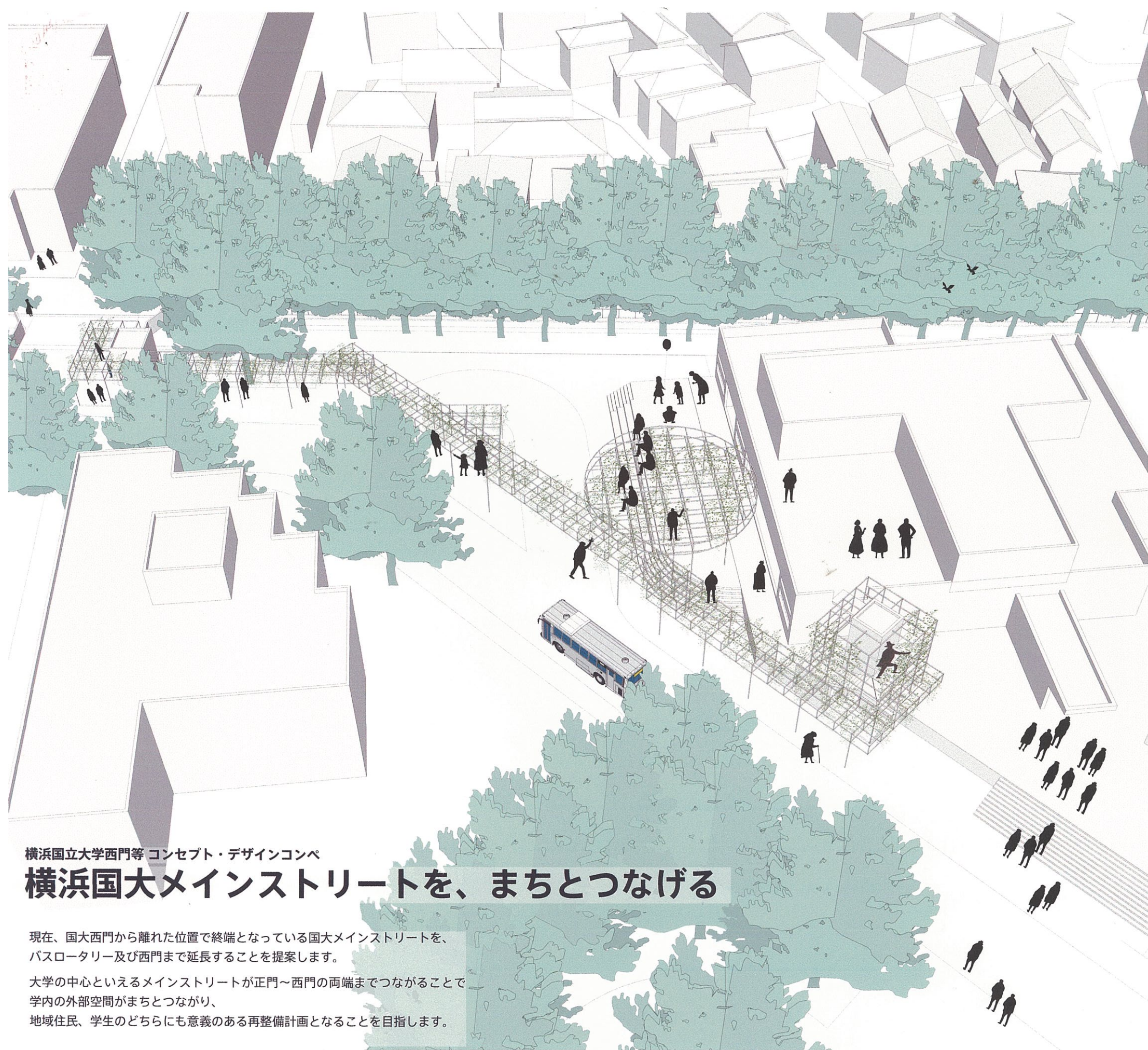




横浜国立大学西門等 コンセプト・デザインコンペ

横浜国大メインストリートを、まちとつなげる

現在、国大西門から離れた位置で終端となっている国大メインストリートを、バスロータリー及び西門まで延長することを提案します。

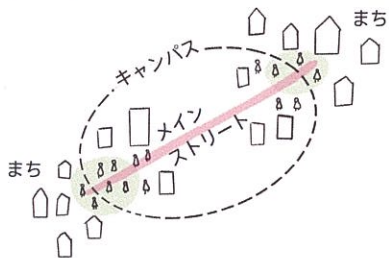
大学の中心といえるメインストリートが正門～西門の両端までつながることで、学内の外部空間がまちとつながり、地域住民、学生のどちらにも意義のある再整備計画となることを目指します。

1 対象エリアの価値

「メインストリートの端部」

横浜国立大学 常盤台キャンパスでは、豊かな緑の中に多数の校舎、歩道、車道が配置されています。その中心部に走るメインストリートは、キャンパス全体のデザインの背骨であり、学内のコミュニティや学生の居場所、広大なキャンパス内での道標としても重要な役割を担っています。

今回の計画対象エリアは、メインストリートの端部に位置し、キャンパス全体の構成にとっても重要な場所であると言えます。



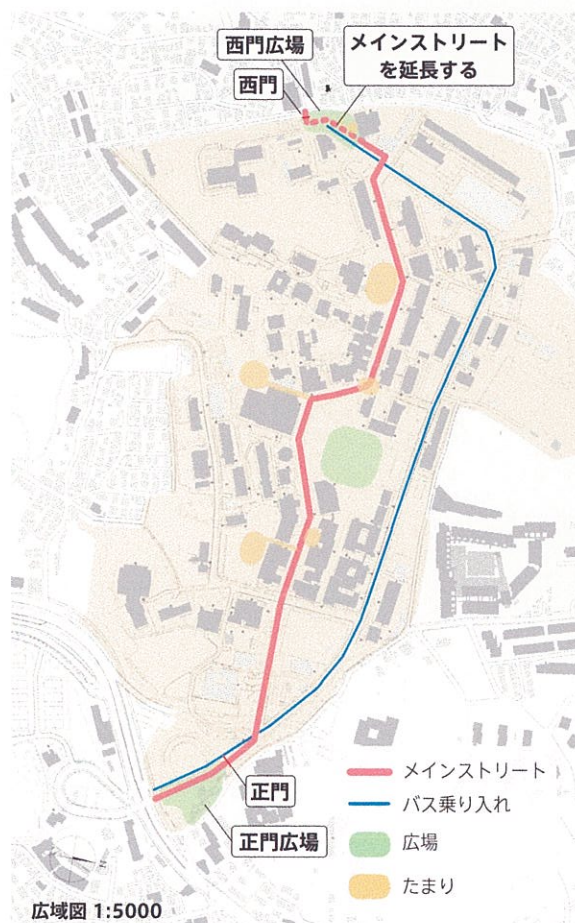
「地域との接点」

対象エリアには、2011 年よりキャンパス内への乗り入れが開始された公共交通バスの停留所および折返し所があり、他にも一般利用の想定しやすい食堂、学生生協、コンビニがあります。

一方で、西門側の近隣には学生や職員が大学構外で利用する施設（飲食店、病院、薬局など）も多く、地域住民と学生や職員がともに行き交う場としてのポテンシャルを秘めています。

地域に開かれたキャンパスとして、西門を外部からアプローチしやすいオープンなカたちとし、**地域住民との関係をつくる場**とします。

2 キャンパスとまちをつなげる場所にする



「西門までメインストリートを延長する」

第二食堂の付近で止まっているメインストリートを西門まで延長します。これにより、学内の外部空間がまちとつながります。

「メインストリート沿いの たまり」

2001 年から始まったキャンパスデザイン計画室による再整備では、メインストリート沿いに「小さな活動のたまり」がつけられてきました。建築学棟や電子情報工学科棟につくられたパーゴラと階段状のデッキなどです。今回の計画では、第二食堂のテラス席、バス停などの周辺をあらたな たまり として設定します。

「メインストリート端部の 広場」

2010 年に正門付近の整備が行われ、メインストリートの端部にパーゴラとデッキテラスのある正門広場ができました。今回の対象エリアとなっているバスロータリー周辺のオープンスペースを活かし、西門広場として設定します。これにより、メインストリートがまちに接する両端部に広場ができ、学生や地域住民がともに使える活動の場となります。大学とまちの接点で、より明確に「地域に開かれたキャンパス」であることを伝えることができます。



舗装面の統一、幅員
薄ピンク色のインターロッキング

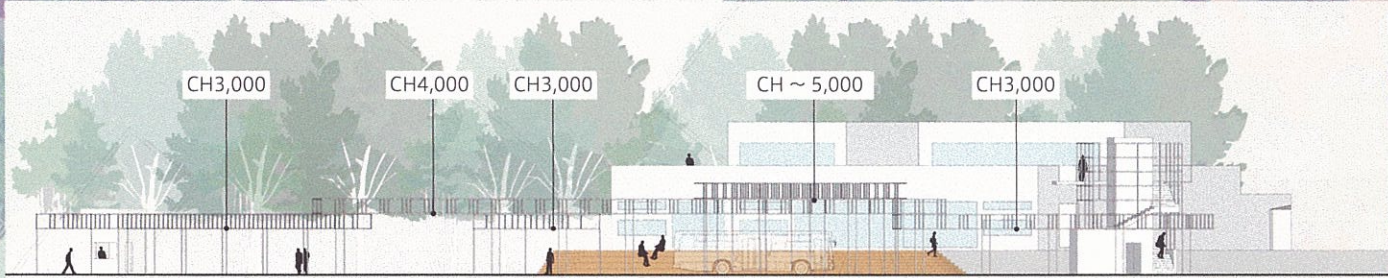
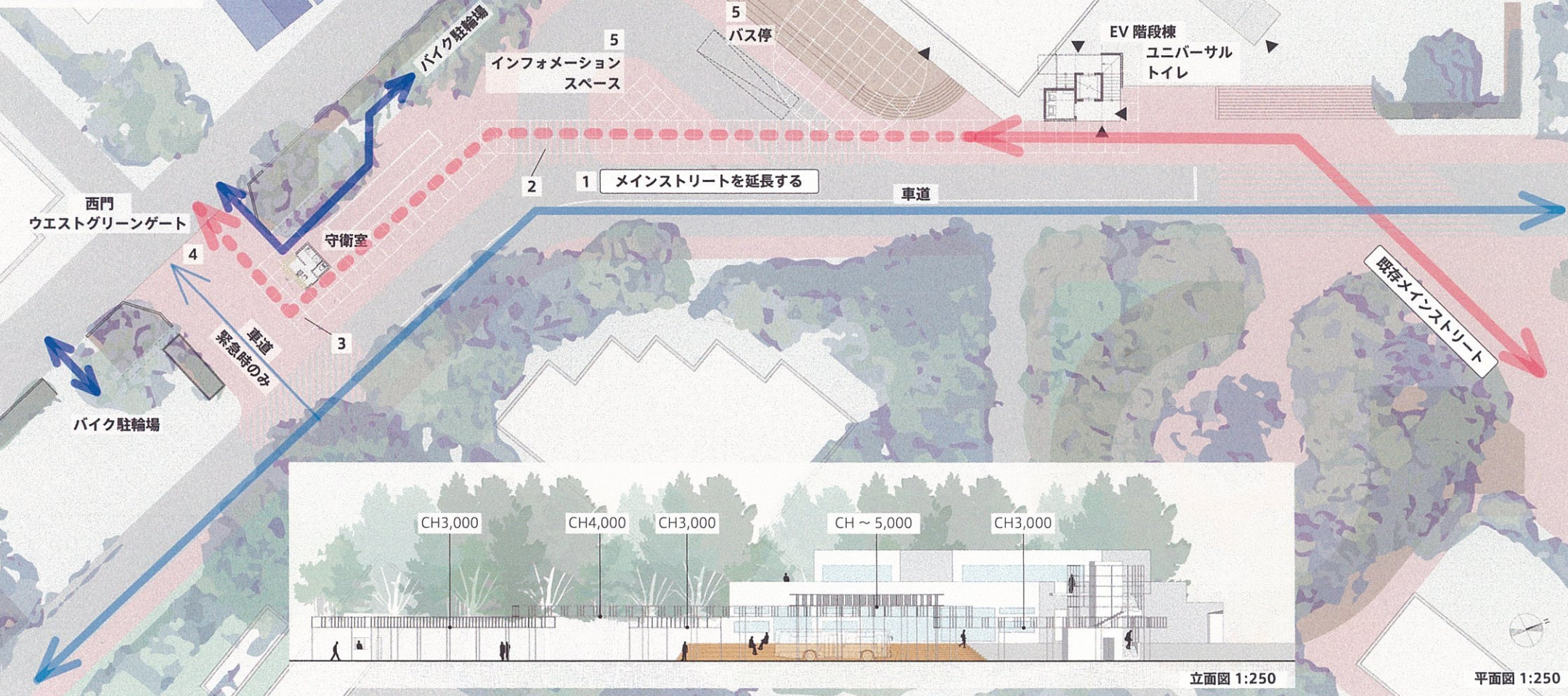


木陰をつくる樹木



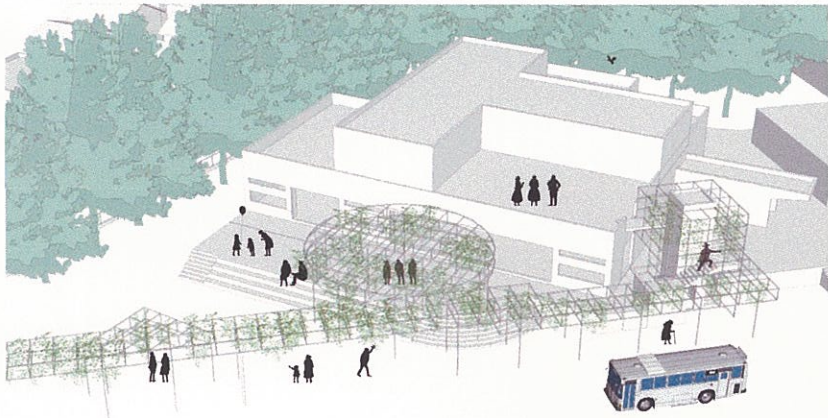
1. 既存バスロータリー区画沿いに新設歩道を計画します。路面は既存ストリートと同様のインターロッキングブロック舗装とし、バス走路と交わる2ヶ所についても第2食堂、コンビニ前の横断歩道と同様に2色使いのインターロッキングブロック舗装とします。
2. メインストリートのポキャブラリーを引用し、新設歩道の上部にパーゴラを設け、既存植栽帯と連続させます。
3. 西門アプローチの視認性を改善するため既存植栽帯とバリカーを整理し、ストリートから延びてきたパーゴラと一体化した緑の門を設けます。
4. 合わせて既存全幅内で歩車道アプローチの位置と幅員を変更し、歩車分離を明確にします。
5. 延長したメインストリートに沿って、小さな活動のたまりを作ります。(インフォメーションセンター、バス停と2食テラス)

※インフォメーションスペース
構内のイベント情報や各種案内
などの掲示が集まる場所



立面図 1:250

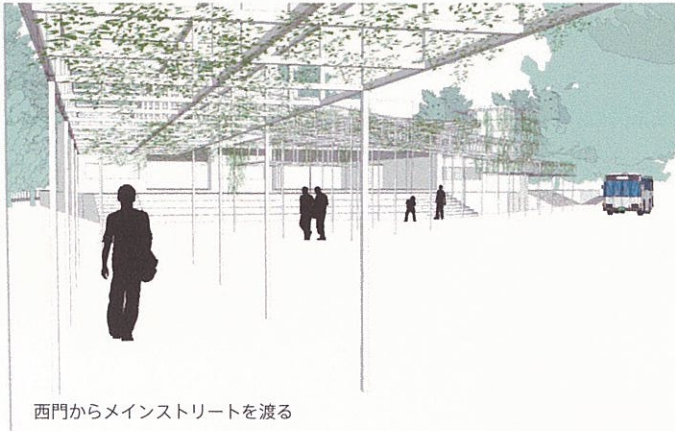
平面図 1:250



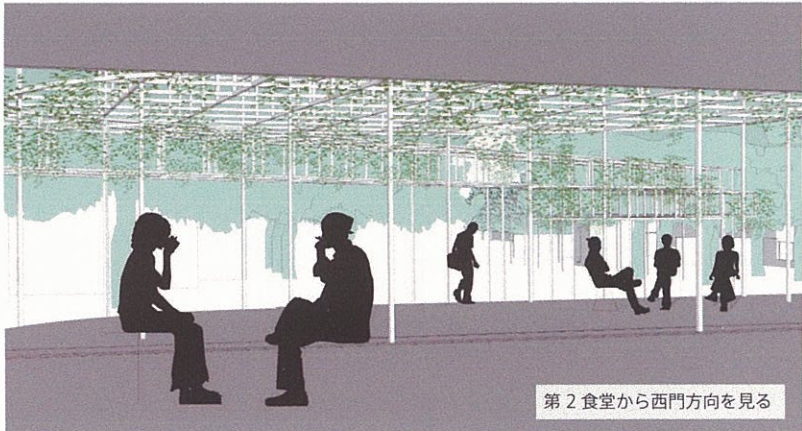
立面図イメージ



西門の様子。まち側から眺める。



西門からメインストリートを渡る



第2食堂から西門方向を見る

3 西門広場の「ストリート」「たまり」「ゲート」

エデュカストリート

メインストリートの延長部分は、特に地域とキャンパスのつながりをつくる部分として「エデュカストリート」と名付け、パーゴラによって流れを強調します。

ウエストグリーンゲート

西門は新たに、線にかこまれ開けた入り口となります。プレハブ状の西門管理人詰所は美観の観点から解体撤去し、新設パーゴラの構造と一体化した守衛室を門の内側に新設します。

歩車分離

西門付近の歩道位置を変更し、わかりやすい歩車分離計画とします。

たまり2.

バスロータリーの転回路内の島状の歩道スペースには、雨をしのげる休憩所を兼ねたインフォメーションスペースを設けます。

たまり1.

バス停沿いの第2食堂のテラススペースは、バス停と一体的な外部空間として既存傾斜面を利用したひな壇状のデッキテラスとし、上部には歩道と同様にパーゴラを設け、バス待ちを快適に過ごせる様々なアクティビティを誘発します。

バリアフリー・ユニバーサルデザイン

メインストリートとして有効な幅員を確保するため、第2食堂・購買棟の屋外階段+トイレとその周辺外構を解体撤去します。そして、歩道幅員に影響のない位置に歩道レベルからアプローチ可能とした屋外階段・エレベーター・多機能トイレとして新たに設置します。

4 スケールを横断するデザインコンセプト

キャンパスのスケール

> 建築のスケール

> 小さな活動のスケール

キャンパス内には様々なスケールが併存しています。広大なキャンパスの全体計画は都市計画レベルの大きな動きで行われ、各校舎は極めて理性的で合理的な幾何学形状になっています。その中であって、小さな活動のたまりとなるパーゴラやデッキテラスの形状も、同じく幾何学的につくことで、全体の空間のなかで確かな存在となると考えました。通常、ヒューマンスケールのもので都市レベルのものをデザインするには異なる動機が働きますが、その違いが集まったときにちぐはぐで場当たりの印象になることを避け、あえて都市スケールのな意思で小さな活動の場をつくっていくことで、キャンパス全体の空間が意味あるものになります。